

小学校の教育現場で働く、教職員の皆様へ

# サポート通信「つなぐ」

編集：こども発達相談センター

第5号



令和2年

3月吉日発行

連絡先 23-7534

2月28日(金)のこども発達相談センター主催の第3回地域啓発セミナーは中止になりました。当相談センターとしては、今回のセミナー内容も重要であると位置付けており、来年度には、同内容のセミナー開催を予定しています。

予定であったセミナー内容の一部を紹介いたします。

## ●「個別の指導計画：原案」の「個別の支援計画」への名称変更について

当センターは、小学校にとっては就学で関係のある機関の一つです。当センターで保護者と相談担当者で作成する文書は、小学校における「切れ目のない支援」のための文書になります。その点を考慮すると文書名は「個別の支援計画」が適切と考え、名称の変更をしました。

## ●「個別の支援計画」に記載される内容について

記載情報は、すべて保護者了解の情報になります。

生年月日等の個人に関する情報と共に、小学校入学に向け、保護者及び本人の願いが書かれています。

また、個別の検査結果を基に、医療等の専門分野からの対象児の特性を記録しています。対象児の得意、苦手を記載しています。どうしても仕方なくそうになってしまう資質も推測しています。



## ●特性の根拠の個別検査とその取扱いについて

個別検査結果は、数値がよく独り歩きします。検査を標準化しているところは、保護者を通じて得た検査結果でも数値のみの独り歩きを固く禁止しています。検査結果の取扱いは、検査に精通している機関・人のみに許されることと使用の規定を公表しています。

標準化の手続き上、下位検査結果の大きなばらつきがある場合、平均した数値は、その項目を代表することを控えるという表記になっています。

また、WISC-IVの検査は、得ることのできる数値に加え、検査中における対象児の反応に対する評価を書き加えています。この記載内容には、本児の特性をしっかりと表す場合が多くみられます。

## ●WISC-IVの検査について

この検査は、言語理解、知覚類推、ワーキングメモリー、処理速度の項目について評価をしています。

言語理解は、言葉で物事の説明をする力・言葉の概念を理解する力の項目です。

知覚類推は、目で絵や形を見比べる力・変化の見通しを考える力の項目です。

ワーキングメモリーは、聞いた情報を短時間覚えて考える力の項目です。

処理速度は、見比べて正答を選択する力・見本と同じ記号を書き写す力の項目です。

それぞれの項目で、得意・苦手が生活場面・学習真面で発揮されると、対象児の行動・学習に大きな差が表れることとなります。

診断名では子どもの行動は限定されない根拠がここ

にあると考えます。ですから、自閉症スペクトラムという診断があっても、子どもの特性はいろいろになってきます。

しかしながら、WISC-IV解釈ガイドラインでは、WISC-IVの検査結果から項目間のパターンを12に分けて、子どもの傾向を分かり易く伝えて追います。

## ●一例 言語理解：低、知覚類推：高、ワーキングメモリー：高、処理速度：低の場合

パターンのみでの解釈は、重要な視点の抜け落ちる危険性が高くなります。しかし、パターンについて言える「一般性」については説明できると考えます。

言語面と書くことをつまづきが予想されるので、説明や指示に、個別指導が必要になります。また、「とめ、はね、はらい」について大目に見ていくことも必要になる可能性があります。聞いて覚えることは得意だが、言葉の意味理解に落ち込みが想定されます。視覚処理の力が強いので視覚的な補助情報が有効になります。

## ●園・家庭での対象児の様子について

基本的な生活習慣について、配慮すべき状況の有無を聞き取って記載します。園や家庭でどの程度配慮や支援があったかは、小学校での生活支援・配慮で重要な情報になります。

食事場面で、「家庭では好き嫌いはあるが、園では他の同様な対応できている」「少なくすることで、安心して食事ができている」という情報は、そのまま1年生でも通じる対応法になります。

また、好きなことが中止できず親や教師の指示が聞けない場面が想定される場合は、「前もって、あと〇回、あと10分等の声掛けで、制御できる場面がある」の記述は、大変有効な情報であると思われます。

## ●上記情報を基にした合理的配慮(案)について

子どもの実態から想定される子どもの困り感に対応した「合理的配慮の案」を保護者と共に作成をします。

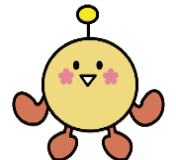
合理的配慮は、学級の状態により実行可能かどうか変化をします。保護者には、合理的配慮の優先順位を担任と相談していただくと、入学後の担任との関係性についても話をしています。

参考資料として、下記の情報を提供する予定でした。

●発達障害の種別に応じたUD：北野小研究要覧よりH29年に北野小学校により作成された研究要覧より「発達障害の種別に応じたUD」を配布しました。対応できる障害種別、支援観点が明確になった一覧表です。

## ●支援者向け「思春期女子の学校生活」パンフ

発行は国立障害者リハビリテーションセンター(厚労省)、協力は特総研・発達障害者センター(文科省)。副題に「発達障害の女性の困難さへの気づきと対応」。



※来年度開催のセミナーにぜひご参加ください。